

「角館祭りのやま行事」無形文化遺産に

日本時間の12月1日午前2時過ぎ、国連教育科学文化機関（ユネスコ）の政府間委員会で仙北市の「角館祭りのやま行事」を含む全国33件の「山・鉾・屋台行事」の無形文化遺産への登録が正式決定しました。

これを受けて、12月1日の午後に行われた記者会見で門脇市長は「お祭りは地域全体の協力なくして開催できない。今回の登録決定は世界中へ郷土の誇りを

発信する機会をいただいたということだと思ふ。また、後世へしっかりと継承するために各機関との関係をより強化していきたい」と登録決定を喜びました。

また、角館祭りのやま行事実行委員会の今野則夫委員長は「先人が残した功績の大きさとありがたみを感じる。さらに前へ進むための明るい材料として引き続き安全第一で一生懸命頑張っていきたい」と抱負を述べました。



ユネスコの登録決定を受け「角館祭りのやま行事」のさらなる発展を願う門脇光浩市長、角館祭りのやま行事実行委員会の今野則夫委員長、熊谷徹教育長（右から順に）。



角館祭りのやま行事実行委員長で角館のお祭り保存会の会長も務める今野則夫さん。「いつか角館、土崎、鹿角が一堂に会する行事でさらにPRできれば」と話しました。

【無形文化遺産へ登録とは】
2006年発効の無形文化遺産保護条約に基づいたもので、ユネスコ加盟国が協議して登録した伝統的な芸能や祭り、社会的慣習、伝統工芸技術などを対象としている。

角館祭りのやま行事

毎年9月7日から9日に角館町で行われる角館のお祭り。2台の曳山をぶつけ合う「やまぶつけ」と情緒豊かなおやま囃子で知られ、藩政中期頃、成就院薬師堂の祭典として始まる。明治期になり、角館神社の祭典と合体した。通りで曳山が鉢合わせすると、どちらが先に通るかで交渉し、話し合いが決裂した場合、やまぶつけが始まる。1991年に国の重要無形民俗文化財に指定。



まちづくり日記

No.110

『先人に感謝、そして次代へ』

仙北市長 門脇 光浩

12月1日午前2時過ぎ、エチオピアのアディスアババで開催していた政府間協議で、「角館祭りのやま行事」を含む全国33件の『山・鉾・屋台行事』がユネスコの無形文化遺産に登録されるのが正式に決定しました。

この行事は、声名義勝の時代から受け継がれてきた歴史あるもので、角館のお祭りの名称で全国に知られています。角館神社と薬師堂の祭典として毎年9月7日から9日の3日間開催され、平成3年には国指定の重要無形民俗文化財に指定されました。

仙北市はもちろん、秋田を代表するお祭りとして、毎年多くのお客様をお迎えしてきた「市民の誇り・郷土の宝」で、登録を大変嬉しく思っています。

今日までお祭りの保存と催行に「尽力」くださった皆様、関係省庁・国内外の専門家の皆様など、多くの皆様に感謝と御礼を申し上げます。またお祭りは曳山の巡航、囃子の奏者や踊り手など、たくさんの方の参加があって成り立っています。保存会・実行委員会、町内の方々

もちろん、北浦地方の多くの皆様の、長きにわたるご理解とご協力にあらためて感謝を申し上げます。

「小さな国際文化都市」を目指す仙北市は、「この世界遺産登録を機に」角館祭りの「やま行事」を育んだ郷土の歴史文化や景観、魅力的な食・農・観・人材を世界に発信したいと考えています。そのためにも必要な対策を講じ、関係団体の皆様にもご協力をいただくなどして体制の強化を急ぎます。昨年、大変に痛ましい事故が起きたお祭りですが、由来やしきたりをしっかりと継承し、安全で楽しく開催できるように取り組むたいと思っています。

県内で同時登録となった「土崎神社祭りの曳山行事」「秋田市」「花輪祭の屋台行事」「鹿角市」を大切に継承されてきた両市民の皆様にも心よりのお祝いを申し上げます。角館・土崎・花輪の各行事の相互連携は、今後ますます重要になると感じています。一緒に手を携え、文化の秋田を広く発信できるように、連携の強化に努めます。

かくのだてフィルムコミッション

ロケーションだより

Kakunodate Film Commission

かくのだてフィルムコミッション
(仙北市観光課内) ☎43-3352
<http://kakunodate-fc.jp/>

今年も残すところ後わずかとなりました。今年も多くの撮影支援に関わりました。

4月の報道ステーション(テレビ朝日)の武家屋敷通りでの夜桜のライブ中継に始まり、「新日本風土記」東北の桜(NHKBSプレミアム)、全日本空輸の機内で上映される番組「スカイアイ」空からのメッセージ(秋田編)、劇団わらび座が取り上げられた「カンブリア宮殿 秋田発! 地域を活性化する異色の劇団 飲む・見る・泊まる」複合エンタメ企業(テレビ東京)、ヤングジャンプのグラフィア撮影、秋田県出身のタレント・女優の壇蜜さんが出演した「壇蜜と、天才画家の影法師」異才 小田野直武の故郷 角館を歩く旅」等を支援いたしました。壇蜜さんが出演した番組について



思い出の湯分校での撮影風景

は、事前に情報が広まると撮影に支障をきたすことも考えられるため、秘密厳守の徹底した体制で撮影を支援いたしました。過去に、撮影が始まる前に一般の方からツイッター、フェイスブック等で拡散されて、撮影に影響を及ぼした経験がありますので、細心の注意を払って支援を行いました。その甲斐もあって、滞りなく撮影を終えることができました。SNSが普及し、情報の拡散はあつという間です。撮影者側の意図を汲み、情報を広めることも漏洩を防ぐことも、私たちの役目のひとつです。

今年も皆様のご協力をいただき、かくのだてフィルムコミッションは、多くの撮影に関わることができました。来年もよろしくお願いたします。

(会長 坂本 洋)